

令和6年度 自己評価書

学校名	和歌山市立 東山東小 学校
校長氏名	阿部 敬子
作成日	令和 7 年 2 月 28 日

1 教育目標

生きる力をはぐくみ、心身ともに健やかで、
明日の社会を築く豊かな創造性と実践力を持つ子どもの育成

2 本年度の取組についての評価

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	- 県学習到達度調査の正答率が県平均を上回る - わかる授業、児童主体の授業を実践したと思う。 (児童・教師90%) - うちどく50・100ブック達成 (45人以上)	- 学校が楽しいと感じる (児童90%) - いじめ解消率(100%) - 小学校道徳「いきるちから」「心のとびら」の活用 (100%)	- 新体力テストで全国平均を上回る 「早寝・早起き・朝ごはん」の実行(90%) - 避難訓練を年3回実施計画する(100%)	- 地域とかかわった実践を全学年で実施する - 学校の様子がよく伝わった (保護者80%) - ホームページを積極的に活用する
重点目標	◎基礎・基本の確かな定着 ◎子供主体の授業の推進 ◎家庭学習の定着 ◎読書活動の推進	◎互いを認め合う仲間づくり ◎体験的活動の充実 ◎道徳教育の充実	◎体力向上の推進 ◎基本的生活習慣の確立 ◎危機回避能力の育成	◎家庭・地域連携の充実 ◎地域人材の活用推進 ◎積極的な情報の発信
取組の状況	「和歌山の授業づくり基礎・基本3か条」を徹底させた授業を行う。 - 全教員が、年間1回の研究授業を実施し、授業力の向上を図る。 - 学びの時間や放課後学習において基礎学力の定着を図る。 - 家庭学習の手引きや自主学習ノート・タブレットを活用し、家庭学習の定着を図る。 - うちどく・読み聞かせを推進させ児童の読書意欲を図ると共に充実した図書環境を整える。	- いじめアンケートを年間に複数回実施し、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努める。 - 情報モラルやネット社会における人権意識啓発に努める。 - 縦割り活動や全校遠足等を充実させ、子ども同士が関わる機会を増やし、共に協力し思いやる心の育成を図る。 - 特別の教科「道徳」で考える道徳を意識した授業を推進する。	- 基本的な運動の取り組み方について学習し、体力づくりや基礎運動能力の向上を図る。 「フツ化物洗口」を継続して行い児童の歯の健康の増進を図る。 「早寝」「早起き」「朝ごはん」を推奨し、生活習慣の確立に努める。 - 避難訓練や交通安全教室を計画的に行い、危機回避能力を育成する。	- 学校だよりやホームページ等を通して、児童の様子や学校の情報を発信するとともに、授業や行事等を積極的に公開する。 - 授業のゲストティーチャー、読み聞かせボランティア等の人材や地域の自然文化を積極的に活用する。 - 学校運営協議会制度の有効活用や地域先達事業による地域交流などを通して連携事業を推進する。
取組の成果と課題(評価結果)	- 対話的な学びを学習の中心に据えた授業改善の取り組みは、児童自身の考えや見方を深め、よりよい学びにつながった。 - 各学年、基礎基本的な内容の定着に取り組む必要がある。 - 県学習到達度調査では、4年生は県平均を上回れなかったが、5年生は国語、算数においてほぼ県平均の結果となった。 - 全国学力調査のアンケート結果より、毎日1時間以上家庭学習をしている児童は全体の80%以上であり昨年度より家庭学習の定着度が高くなった。 - 積極的に読書に親しむ習慣を身につけた児童が増加した。	- アンケートで95%以上の児童が、学校は楽しいと答えている。子どもたちに安心や充実感を感じさせる取り組みの成果であると思う。 - いじめアンケートをいじめにつながると思われるような小さな案件にも迅速に取り組んだ。 - 縦割り活動を行うことで、高学年の児童は自覚や自信をもって活動し、以前よりも増して異学年交流が広がった。 - 職員間で、気になる子について話し合う機会を多く持ち、共有することで児童理解につながった。	- 新体力テストの総合評価では、男女 共ほぼ全国平均となっている。 - フツ化物洗口や給食後の歯みがき活動を積極的に取り組んだ。 - 家庭との連携により、基本的生活習慣の確立は出来ているが一部児童のゲーム時間の短縮が課題である。 - 全国学力学習状況アンケートで、朝食をきちんととれていない児童が増えた。保護者に啓発していきたい。 - 自然災害や防犯を想定した避難訓練は計画的に行え、児童危機意識を高めることが出来た。	- 学校だよりやHP等で学校教育に関わる情報を積極的に発信することができた。 (学校の様子が分かる90%) - 昨年度よりも地域の方々や山東まちづくり会との交流を増やし、児童に様々な実体験をさせることができた。 - より多くの保護者に懇談会や講演会に参加してもらえるような工夫や手だてを考える必要がある。
改善方法	- 基礎学力の定着は、「たけのこタイム」や「放課後学習」を有効活用し個に応じた指導を徹底する。 - 家庭学習の定着についての取り組みは、職員間で共有し、引き続き保護者に周知するよう努める。 - 図書環境の充実を継続し、児童の読書意欲の向上に努める。	- 職員間のアンテナを高めて、いじめにつながるような小さな芽や子どもの言動に注意を払っていく。 - 学校があまり楽しくないと思っている数名の児童について、その原因を究明、改善につなげる。 - 縦割り活動を通して、協力し相手を思いやる気持ちを育てる。	- 児童が意欲的に運動に親しむための指導の在り方について研究を深め、基礎運動能力の向上を図る。 - 家庭と協力しながら児童の基本的生活習慣の構築に努める。 - より実践的な避難訓練を行い、更なる防災意識の向上を図る。	- 学校だよりやHP等で学校教育に関わる情報発信に一層取り組む。 - 本年度の活動を活かし、より充実させながら、新しい交流の仕方を考える。 - 懇談会の持ち方や講演会の内容吟味し、より多くの保護者が学校行事参加できるように努める。

3 その他の課題

- 児童のクールダウンが行える場所や図書室の独立のための教室の確保が早急に必要である。 - コミュニティスクールの向上のためのネットワークづくりに引き続き取り組む。 - 本校は、小規模校で、教職員数が少なく、児童の安全確保のための人員不足を感じている。児童のより安全な学校生活の保障に繋げられるような運用の工夫を考える。
--